

眼科領域における器材の再処理方法の現状と課題



NPO法人HAICS研究会 眼科感染対策(IPEC)プロジェクトチーム
○網中眞由美 細田清美 兵頭涼子 大音清香 小野和代 渋谷智恵 谷村久美

背景

- 当研究会は2011年「眼科領域における感染対策の基礎調査」を実施。（第27回日本環境感染学会発表）
 - 器材の再処理方法施設ごとに多様で、洗浄・消毒・滅菌の選択に混乱が生じていることが明らかになった。
- 2015年「眼科診療における感染対策ガイドブック」を発行

目的

2015 年に発行した「眼科診療における感染対策ガイドブック」から器材の再処理について眼科診療・看護の現場の感染対策の実態を明らかにし、ガイドブックの有効性を検討する。

方法

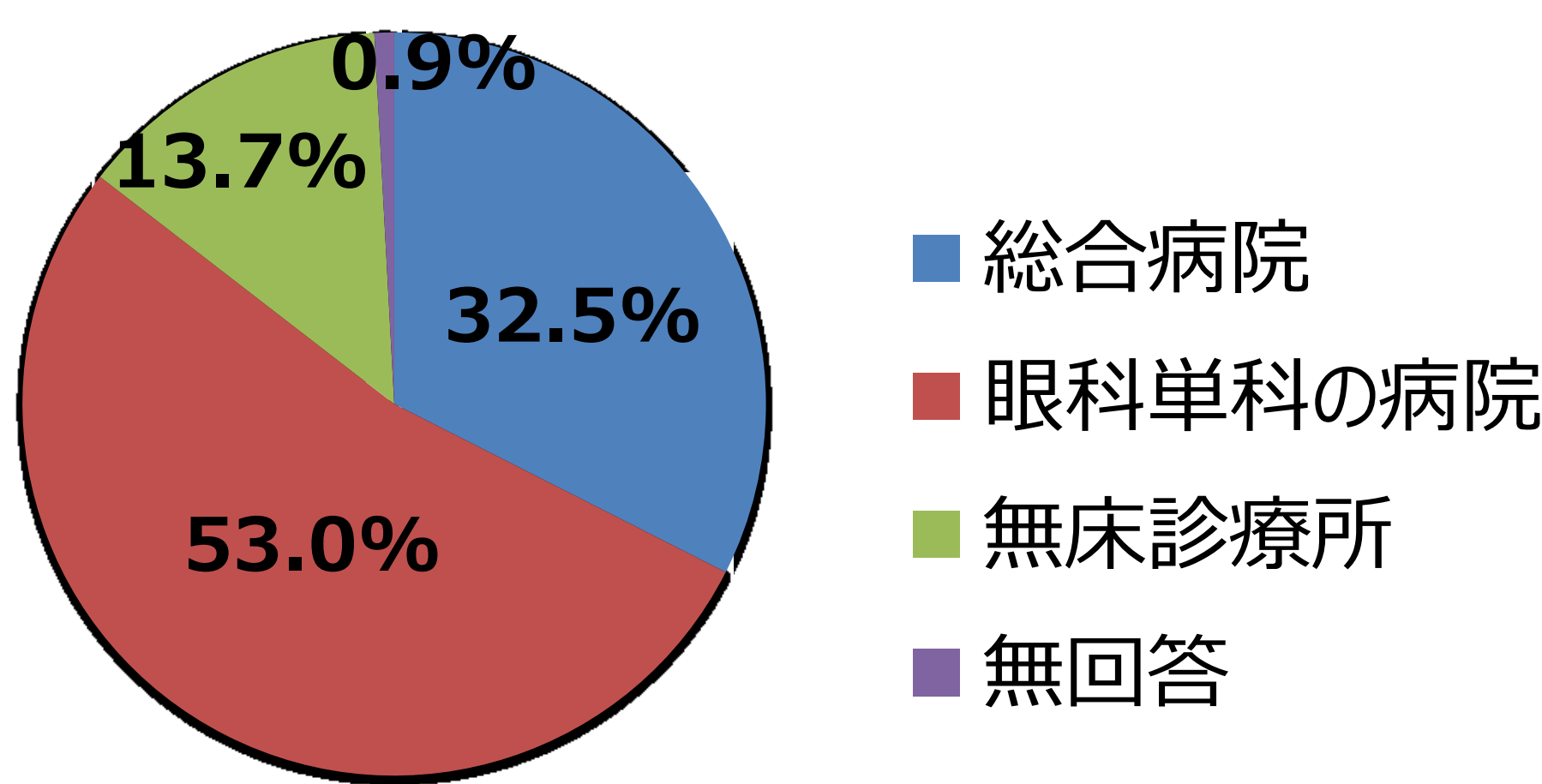
- <対象> 2015年10月に開催された日本視機能看護学会参加者756名。
- <方法> 「眼科診療における感染対策ガイドブック」と自記式無記名調査票を学会で配布し、学会期間中に会場内で回収。

結果

- ◆有効回答数：117名 《眼科経験》 1年以下; 9人, 2~3年;17人, 4~5年;26人, 6~10年;25人, 11以上;36人, その他;4人 《勤務場所》（複数回答）病棟;53人, 手術室;29人, 外来;40人, その他;2, 無回答;24人

回答者の施設概要

施設の種類(n=117)



眼科外来受診者数/日(n=117)

	50人以下	51～100人	101～200人	201～300人	301人以上	不明
	5.1%	26.5%	25.6%	18.8%	16.2%	5.1%

手術件数/年(n=117)

	500件以下	501～1,000件	1,001～2,000件	2,001～3,000件	3,001件以上	手術なし	不明
	20.0%	20.5%	14.5%	17.9%	14.5%	9.4%	3.4%

再処理事材の洗浄

- ✓90%以上が消毒または滅菌前に洗浄を実施している。
- 施設の種類による統計学的有意差なし。

しかし！

器材の適切な再処理

洗浄＋滅菌が必要な器材(一部2011年調査と比較)

	器材名(回答数)	適切な再処理		p値
		本調査(%)	2011年(%)	
手術	鋼製小物(64)	43.8	—	—
	ハンドピース(54)	44.4	17.9	<0.05
	レーザープローブ(38)	31.6	—	—
	冷凍凝固プローブ(34)	35.3	—	—
	レンズ類(47)	40.4	—	—
外来	硝子棒(61)	44.3	—	—
	睫毛抜糸用鑷子(73)	34.2	39.6	0.53

洗浄＋浸漬消毒＋すすぎが必要な器材

外来	接触型レンズ(73)	31.5	39.6	0.32
外来	アプラネーションチップ(59)	32.2	25.7	0.44

清拭消毒が必要な器材

外来	非接触型レンズ(52)	69.2	—	—
	ハンドスリット(60)	96.7	—	—
	倒像鏡本体(59)	93.2	—	—
	機器の顎台、額あて(77)	100.0	—	—

- ✓ハンドピースは適切に再処理(洗浄＋滅菌)される割合が有意に増加。
- ✓しかし、滅菌、浸漬消毒が必要な器材⇒適切な再処理実施割合は50%以下と低い傾向。
- ✓清拭消毒する器材⇒約70%以上が適切に再処理実施している。

再処理事材の未洗浄は

	器材名(回答者数)	未洗浄 (%)
手術	鋼製小物 (64)	7.8
	ハンドピース (54)	7.5
	レーザープローブ (38)	26.4
	冷凍凝固プローブ (34)	25.3
	レンズ類 (47)	19.2
外来	接触型レンズ (73)	16.4
	アプラネーションチップ (59)	32.2
	硝子棒 (61)	6.5
	睫毛抜去用鑷子 (73)	8.3

- ✓直接眼に触れる器材が未洗浄で消毒や滅菌されている。

ほかにも

洗浄のみで再使用している器材

%[2011年調査]

手術	鋼製小物 (64)	7.8
	ハンドピース (54)	9.3[0.0]
	レーザープローブ (38)	7.9
	冷凍凝固プローブ (34)	5.8
	レンズ類 (47)	8.6
外来	接触型レンズ (73)	30.1[24.4]
	アプラネーションチップ (59)	8.5[2.9]
	硝子棒 (61)	3.2
	睫毛抜去用鑷子 (73)	5.5[3.0]

洗浄＋消毒＋滅菌をしている器材

%[2011年調査]

手術	鋼製小物 (64)	37.5
	ハンドピース (54)	37.1[69.6]
	レーザープローブ (38)	26.3
	冷凍凝固プローブ (34)	20.6
	レンズ類 (47)	19.2
外来	接触型レンズ (73)	5.5[10.5]
	アプラネーションチップ (59)	8.5[21.4]
	硝子棒 (61)	26.2
	睫毛抜去用鑷子 (73)	27.4[46.5]

- ✓洗浄のみで再使用される器材がある(2011年より増加)
- ✓消毒＋滅菌の過剰処理多いが2011年調査より減少。

結論

- ◆眼科で使用する器材は特殊で繊細な形状なものが多いことや、施設管理者や器材管理をする実践者への洗浄・消毒・滅菌の基本プロセスに関する情報が不足しているために、再処理方法が施設間でばらつきが生じていることが推測される。
- ◆「眼科診療における感染対策ガイドブック」は、眼科に特化した器材の洗浄・消毒・滅菌の基本プロセスに関する情報提供のツールになると思われる。